

文学研究科【学位授与の方針】

文学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的（理念・目的）>

文学研究科は、日本の文学及び言語並びに歴史に関する広範な専門知識を身に付け、それを高度情報社会の中で適切に活用し、生起する諸問題に実証的に対処することのできる、高度専門職業人及び研究者を養成する。また、職業人や研究者として高い倫理観を持ち、社会生活において適切かつ模範的な言動が取れる人材を養成する。

〔博士前期課程(修士課程)〕

日本文学・日本語文化専攻博士前期課程は、長い歴史をもつ日本の文学や言語を研究しながら、移りゆく流行の奥にひそむ、不易な価値や本質を追究している。こうした追究を通して、あるべき日本の伝統的文化を明確に自覚し、継承するとともに、後代の者に伝えてゆくことを教育の目的とする。その目的を達成するため、日本の文学や言語に関する広範な専門知識を身に付け、各種の情報を正確に理解した上で、的確な日本語で自身の考えや思いを表現でき、さらに優れた日本語運用能力やコミュニケーション能力を活かして、教育や行政、企業等の諸業種において、指導的な立場で活躍できる人材を養成する。

歴史文化専攻修士課程は、日本の歴史文化に関する広範な専門知識及び史資料の読解力を有し、その知識・能力をもって史資料や史跡を今の時代に保存・管理・活用する者として、あるいは広く歴史や伝統を踏まえた地域社会の発展を推進する者として、博物館その他の社会教育、自治体史編纂、まちづくり、学校教育、出版、観光などの場において、指導的な立場で活躍できる人材を養成する。

〔博士後期課程〕

日本文学・日本語文化専攻博士後期課程は、日本の文学や言語の研究をいっそう深化させ、あわせて隣接分野も俯瞰しながら、その普遍的な意義を追究してゆく。こうした追究を通して、日本の伝統が育んできた価値観や美意識をあきらかにし、現代的視点から改めて位置づけてゆくことを教育の目的とする。その目的を達成するため、人文学の諸領域における高い専門能力と古今の文献の活用能力を身に付け、日本文学、日本語学、日本文化及び漢文学の分野において高度で独創的な研究を行うことができる人材を養成する。

以下は、この目的を前提とした学位授与の方針である。

<学習成果(教育目標)>

1. 日本の文学や言語、歴史文化に関する体系的な知識を有し、現代の高度情報社会が直面する文化的諸問題を学問的かつ実証的に分析し、その解決策を立案できる能力を身につけていること。
2. 研究発表や共同研究などの経験を活かして、コミュニケーションやプレゼンテーションを適切かつ積極的に行う能力を身につけていること。
3. 職業人や研究者として高い倫理観をもち、社会において適切かつ模範的な言動がとれること。

〔博士前期課程（修士課程）〕

日本文学・日本語文化専攻(博士前期課程)

1. 国際的な視野に立ちながら、日本文学や日本語文化に関する体系的な知識を有し、現代の高度情報社会が直面する文学・言語上の諸問題を学問的かつ実証的に分析し、その解決策を立案できる能力を身につけていること。
2. 古今の文学作品の読解力や優れた日本語運用能力を活かして、コミュニケーションやプレゼンテーションを適切かつ積極的に行う能力を身につけていること。
3. 豊かな日本の文化遺産に敬意を払いつつ、それらを次代に継承させ、発展させてゆく意欲や熱意を身につけていること。

歴史文化専攻(修士課程)

1. 国際的な視野に立ちながら、日本の歴史と伝統・文化に関する体系的な知識を有し、現代の高度情報社会・ボーダレス社会が直面する諸問題を、歴史的観点から実証的に分析し、その解決策を立案・提示できる能力を身につけていること。
2. 史資料や史跡を大切に保存・活用し、過去の歴史を未来に伝達・継承する自覚と技術を身につけていること。
3. 歴史の専門知識と史資料の読解能力を活かし、歴史研究の成果を社会に還元し、市民に伝え、歴史と社会あるいは歴史と市民の媒介者となり、地域社会の一翼を担う資質を身につけていること。

〔博士後期課程〕

日本文学・日本語文化専攻

1. 自立した研究を行う能力や高度の専門的業務に必要な能力を有すること。
2. 従来の研究のまとめや整理にとどまらず、確かな論証により独創的な発見ができること。
3. 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表し、論評に耐えられること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。